



THE GOSPEL NEWS

在日大韓基督教会
宣教100～110周年標語
감사의 백년, 소망의 백년
感謝の百年、希望の百年
(데살로니가전서 5:18)

2014年11月1日(土) 第735号

発行所 福音新聞社 (1部100円)
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3202-5398
発行人/趙重來・編集人/金柄鎬
fukuinshinbun@kccj.jp (福音新聞)
shinacho2003@daum.net (担当者)

2014年 感謝節メッセージ

罪人の祝福

ローマの信徒への手紙3:23～24

張星峻牧師(北上ペテル伝道所)



1. 自分が罪人である事を認める者は幸いである。

教会に来て、はじめて聞いた言葉が「罪人」という単語かも知れません。普通、「罪人」と言う言葉は、大きな事件が起こったことに対して、重い責任を負わなければならない場合、良く使われる言葉だと思えます。たとえば、小さな罪であっても、その罪を指摘されれば、喜んで認められる人はいないと思いますが、それは皆、罪人であるからです。聖書は、こう語ります。「すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず」(ローマ書3:23)。つまり、全人類が、神に対して罪を犯しました。それは、一体どんな罪なのでしょう。

創造主である神さまは、最初の人間であったアダムと、このような約束を結びました。「しかし、善悪の知識の木からは取って食べてはならない。それを取って食べるとき、あなたは必ず死ぬ。」(創世記2:17、以下、新改訳)。神さまは、ご自分の形として創造されたアダムの間で、とても重要な事を約束されたのです。しかし、アダムとエバは、その約束を破ってしまいました。それによって、アダムとエバを始め、すべての子孫、つまり現在の私たちが罪人になった訳です。では、その罪の意味は、一体何なのでしょう。

私たちが信じている父なる神さまは、聖なる方です。ですから、被造物とは聖別されなければならない方です。従って、聖なる神さまは、神さまから創られたアダムとエバが、その聖なるものを壊さないよう配慮して下さったのです。しかし、アダムとエバは、神さまとの大事な約束を破ってしまいました。これは、すべての人々が直面している霊的な運命だと言えます。私たちが、この世を生きていながら経験せざるを得ない、すべての悩みと苦痛は、この罪から出るのです。この罪が、神との関係をダメにするのです。それで、罪人としての意識が、自分だけを守る自己中心的な考えを持たせるのです。それでは、人間が、自分の罪を解決しなければならない理由は、どこにあるでしょう。

それは、「神からの栄誉を受けることができないから」です。神さまに対して、罪を犯した墮落した人間には、聖なる神さまが近づけるのが出来ないのです。ここに、罪人としての人間に苦しみがあるのです。辛い苦痛を経験するのです。創造して下さった神さまから離れたので、常に、心身ともに寂しさを味わわなければならない。この状態から、どうしたら解放できるのでしょうか。それは、罪の問題を解決しなければ、決して解決・解放されない悩みであり、苦しみでもあります。「神さまに対して罪を犯した」という認識が、「救いの道」へ至る初歩であります。自分の罪を認め、聖書を通して、自分の存在について、真剣に考えることが「救いの道」に至る、とても重要な歩みです。この問題は、聖書から来たので、正解も聖書から探して見ましょう。

2. 罪から解放される道を探すことは祝福である。

罪の故に苦しみを受けている人間に対して、聖書は、このような解決策を提示して下さいます。「ただ、神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いのゆえに、価なしに義と認められるのです。」(ローマ書3:24)。ここで、「ただ」という言葉は、「罪を赦される道は、これしかない」ということを意味します。つまり、神さまは、人間の悩みや苦しみを解決するためには、イエス・キリストを信じるしかないと仰せになります。それならば、何を信じるのでしょうか。

それは、「キリスト・イエスの贖い」です。「贖い」と何でしょうか。罪人の代わりに死んで下さったことを意味します。イエスさまは、全く罪がなかったにもかかわらず、人間の罪に救しを与えるために、唯一な道として、この世に来られたのです。そして、神の時になり、十字架において死んで下さいました。このイエス・キリストによる贖いの死の故に、私たちは「義」と認められたのです。この事実を信じるのであれば、皆さんは罪から解放されます。聖なる神さまの所に近づくこともできるし、心から平安を得ることになります。神さまが、罪人に求めておられる「義」とは、これです。イエス・キリストを信じる信仰によって、「義人」になるのです。

皆さんは、自分が罪人であることを自覚してから、非常に恐ろしくなりません。心と魂の寂しさの故に、苦しんではいませんか。あるいは、人間関係において困難を覚えていませんか。心と魂を寂しくさせたり、人間関係をダメにする、私たちに潜んでいる「罪」を解決する唯一な道が、ここにあります。それは、主イエス・キリストを救い主として信じることです。

愛する皆さん。罪から来る苦しみを解決して、真の幸せを手にしたくありませんか。お金がなくても、祝福された人生をとして生きて行く秘訣が、ここにあります。慰めてくれる、家族や友人がいなくても、真の喜びを与えて下さる道が、ここにあります。素晴らしい学歴や経歴がないから、失望する必要はありません。まず、主イエス・キリストを救い主として、信じる信仰を持って下さい。そうすれば、父なる神さまの子として、聖書に約束された祝福を受けることができます。心の寂しさやさまざまな失望から解放されます。さらに、真の自由を味わいます。新しい希望に満ちます。これからは、父なる神さまと共に、永遠の命を味わえます。神さまを愛し、隣人を愛しながら、真の祝福を経験することが出来ます。主イエス・キリストの御名によって、あなたを祝福します。アーメン。

<青年会全国協議会>

第65回「夏期修養会」開催



8月13日(水)～16日(土)、長野県白馬にて、関東・中部・関西の各地方会から青年たちが集まり、「第65回夏期修養会」が開催された。

初日の交流会では、初めて出会う人も多かったが、すぐに打ち解け、それぞれの分団内で交流を深めることができた。主題見解では代表から、「この世界を織りなす一人としてどうある事を望むだろうか」という問題提起がなされた。

二日目には、曹泳石牧師(盤石教会)が「社会と福音」という題で主題講演をした。夜のパリロ礼拝では、近年問題となっている「ヘイトスピーチ」について、キリスト者としてどう考えるべきかについて話し合った。三日目には、聖書プログラムを行い、聖書についての理解を深めた。

全体的には、反省点の多い修養会でもあったが、多くの参加青年が楽しみ、また自らの信仰を問い直す良き機会となったことに喜びを感じた。さらに、盤石教会の曹泳石牧師、長野教会の崔和植牧師、つくば東京教会の許伯基牧師(信徒委員長)、南港伝道所の金大賢牧師が開会・閉会礼拝を含め多くの祝福と奉仕・協力をしてくださった。

今年度からの新たな参加者たちは、交流会・主題見解・パリロ(8.15)礼拝など、各プログラムと企画に大いに満足かつ考えさせられたと述べた。



多くの方々の協力と祈りに支えられ、今年も夏期修養会を開催することができたことに感謝する。

(報告：青年会全国協議会)

<西部地方会> 女性連合会

第27回「修養会」開催

10月6日(月)～7日(火)、西部地方会女性連合会主催による「第27回修養会」が神戸のシーパル須磨で、梁陽日先生(マイノリティ研究会代表)を講師に迎えて、牧師5名を含む40名が参加して開催された。

開会礼拝は、崔美恵子副会長の司会で、梁栄友牧師が「よろこびの実」(ガラテヤ5:22～23)という題で説教した。引き続き、金済明音楽部長の司会で、祈りと讃美の時間が始まり、各教会の祈りの課題を全員で祈り讃美を交えて行った。

「主題講演Ⅰ」では、梁陽日氏は「賜物としてのエンパワメント(生きる力)」と題し、マイノリティの立場とジェンダーを考えることについて講演した。



二日目の朝拝会では、李華順宣教部長が証しをした。そして、「主題講演Ⅱ」で梁陽日氏は、「よりよい人生を過ごすために、必要なことについて」の講演を通して、「毎日家事や子育てや仕事などに追われている女性は、自分を見失っている。その中で、神さまを信じていれば自分も信じられる」と言い、参加者たちを心強く励ました。

神さまから与えられたエンパワメントの意味を考える貴重な時間でもあった。

閉会礼拝は、李炫知会長の司会で、朴斗熙牧師が「手に持っているものは何か?」(出エジプト4:1～4)という題で説教した。

今年の修養会は、主題講演・讃美と祈りの時間など、全てのプログラムの内容が充実した時間であった。神さまから与えられた時間に感謝し希望を持って帰途に着いた。

(報告：兪貞恵書記)

在日コリアン文化の創造と多文化共生社会を目指して、在日本韓国YMCAは皆様と共に歩みます。



東京◆ホテル：東京で一番安く便利な宿泊研修施設。フロントは日・韓・英語に対応、24時間営業。10名様～200名様のお会議及び宿泊研修(50名)も可能。
・スペースYホール：200席の多目的ホール。セミナー・コンサートなどに対応。
・韓国文化教室【チャング・カヤグム・舞踊】・韓国語講座・各種子どもクラス
・YMCA東京日本語学校【3ヶ月～2年、短期研修】

税込	平日	休・休前日
シングル	¥6,500	¥6,000
ダブル	¥10,500	¥9,700
トリプル	¥13,500	¥12,500
朝食・コーヒー¥200(宿泊者価格)		

関西◆にほんご教室《新規開講・募集中》韓国民俗芸術科【舞踊・チャング】
在日本韓国YMCA <http://www.ymcajapan.org/ayc/jp/> *会員及び教職者割引有。詳しくはお問い合わせください。
東京韓国YMCAアジア青少年センター 〒101-0064 東京都千代田区猿樂町2-5-5 ☎03-3233-0611
関西韓国YMCAアジア青少年センター 〒537-0025 大阪市東成区中道3-14-15 ☎06-6981-0782

＜関西地方会＞

オリニ大会・合同夏期学校

「オリニ大会」開催

6月8日(主日)、子供52名・大人36名が参加して、「2014年関西地方会オリニ大会」が大阪教会で開催された。

今年は、大会の場所を礼拝堂ではなく、大阪教会の3階のホールにして行われたため、椅子を周りに置いて真ん中を囲むような形にした。それにより、子供たちが親しみやすい雰囲気の中で、主体的に参加できるようにした。主題曲は「どんどこ」を選び、皆で楽しく歌えるようにもした。

全聖三牧師(教育部長)の子供向けの説教は、ユーモアと親しみを込めたもので、全体的な雰囲気が喜びと楽しみに満ちたものとなった。

そして、サイコロを用いたの使徒パウロの世界宣教を辿るゲームは、勉強ではなく、楽しく遊びながら聖書を学べるものであったため、参加した子供たちも大人たちも大変気持ちよく過ごすことが出来た。

大会の締めくくりとして与えた腕時計のプレゼントも、子供たちは大いに喜んだ。わたしたちの信仰と奉仕と祈りを大いに祝福して下さった神さまに感謝する。

(報告：千奉祚)

「2014年度夏期学校」開催

関西地方会は、7月27日から28日まで、生駒山麓公園で、「喜び!地の果てまで」という題で、布施教会、大阪第一教会、浪速教会、大阪西成教会から31名が参加して、「2014年度夏期学校」を開催した。

開会礼拝は、申容燮牧師(浪速教会副牧師)が「わたしたちが伝えるべきこと」という題で説教した。夕食は、バーベキューをした後、清水師母がパウロの世界宣教の地図を用いて「スゴロクゲーム」と「ロウソクセレモニー」をした。

二日目は、朝のラジオ体操後、宋南鉉牧師(大阪第一教会)が「この山で神に仕える」という題で説教した。昼食後は、子供と大人が水鉄砲で遊びながら大いに喜んだ。

閉会礼拝は、千奉祚牧師(大阪西成教会副牧師)が「喜びと愛に満たされていたステパノ」という題で説教した。来年も楽しく聖書を学び、より多くの子供たちの参加が出来る夏季学校になるように努力したい。

(報告：千奉祚)

＜西南地方会＞九州教区共催

「みんなで集まろう! 2014」



7月21～22日、西南地方会と日本基督教団九州教区共催による「みんなで集まろう!!2014」が、雄大な阿蘇山を望む自然豊かな「ホテルグリーンピア南阿蘇」で開催された。

この集会は、両教会にとって初めての開催であり、全信徒が共に一つの所に集い、礼拝を捧げ、美しい音楽を聴き、食事を分かち合い、ワークショップで顔と顔を合わせ交わりを持つ、子どもから大人までの「夏期学校」である。

開催のきっかけは、九州教区の中で全信徒大会を実施したいという話が起り、西南地方会から共同での開催を提案し、実行委員会を構成され、2年近くの準備を重ね、ついに宣教協約30年を迎える今年の開催となった。参加者は211名(西南地方会67人)だった。

開会礼拝は、教区議長の梅崎浩二牧師が、閉会礼拝は地方会長金明均牧師がした。音楽と証しは、ヴァイオリニストの丁讀宇氏、ワークショップでは地方会と教区に属するタレント豊かな指導者がギリシャ語聖書研究、教会川柳、子どもとの自然の中での遊び、合同聖歌隊、ハンドベル、アンサンブルの演奏などを導き、その多才で豊かな発表が二日目になされた。

交流バザーでは、西南地方会女性連合会が韓国物産を、奄美や九州各地の名物や各教会手作りのグッズなどが販売された。また、地方会に属する方が本格的な鉄道模型とジオラマを展示されたことは、多くの子どもや子どものような大人の注目を集めた。

最後に、祈りと支援をもって支えてくれた地方会と教区、共同実行委員会、そして参加者ひとり一人に感謝したい。

(報告：金聖孝)


レホボト・ジャパン
 Christian Calling Search Site
<http://www.rehoboth.jp>
 Tel: 090-3945-3373
 e-mail: info@rehoboth.jp
 住所: 兵庫県芦屋市朝日ヶ丘 10-35
 レホボトジャパン 検索

豊かな味、豊かな心。

妻家房
 SAIKABO
 代表取締役 吳永錫 (東京希望キリスト教会 長老)
 四谷本店: 東京都新宿区四谷3-10-25 Tel. 03-3354-0100

< KCCJ と UCCJ >

宣教協約締結 30 周年記念集会

9月16日(火)、在日本韓国YMCAで「在日大韓基督教会と日本基督教団との宣教協約締結30周年記念集会」が開催された。

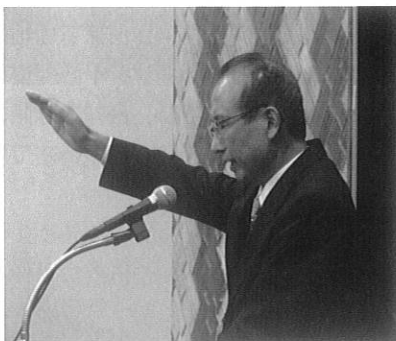
記念礼拝は、教団の伊藤瑞男副議長の司会で始まり、総会長趙重來牧師が「山に立ちなさい」(列王記上19:11~18)と題して説教した。



総幹事金柄鎬牧師が挨拶と案内の後、プラハ日本人教会の宣教師である孫信一牧師がチェコ福音兄弟教団代表二人を紹介して、それぞれ挨拶をした。

引き続き、昼食をしながら趙永哲牧師(副書記)と雲然俊美牧師(書記)により両教団からの参加者を紹介しながら交わりの時を持った。

午後からは、教団の長崎哲夫総幹事の司会で、李根秀牧師(書記)、許伯基牧師(つくば東京教会)、張田眞牧師(歴史共同研究委員)、小橋孝一牧師(同委員)がそれぞれ発題した。



さらに、パネルディスカッションを通して宣教協約の過去と未来について真剣に語り合いながら議論をした。



閉会礼拝は、金性済牧師(副総会長)の司会で、石橋秀夫牧師(教団議長)が「本来の命と力の回復」(使徒言行録2:37~38)と題して説教して閉会した。

これからも宣教協約の精神と歴史を生かしながら、宣教課題を具体的に行っていくことを臨みたい。

(報告:編集部)



< 関西地方会 > 女性連合会 創立 60 周年記念

第24回「みことばと讃美のフェスティバル」開催

去る9月14日(主日)、関西地方会女性連合会の創立60周年記念として、第24回「みことばと讃美のフェスティバル」が、大阪教会で、12教会の女性会会員156名を含め26名が参加して開催された。礼拝堂には溢れるほどに集まった信徒たちが心をつなげて恵みを受けた。

第一部の礼拝は、全早苗宣教部長の司会で、金必順牧師(関西地方会会長)が「人生をつなぐ讃美」(ヨハネ15:4)と題して説教した。

第二部の「フェスティバル」(司会:姜志鮮副会計)では、まず金英子女性会会長の挨拶と審査委員5名の紹介があった後、各教会の讃美が行われた。参加した全ての教会が素晴らしい讃美とみことばで神に栄光を捧げた。

今年は、関西地方教会女性連合会創立60周年を記念し、24年目を迎える「フェスティバル」はより豊かな盛り上がりを見せ、みことばと讃美の一体感の中で神さまの愛を確かめ合う有意義な一日となった。

なお、礼拝では席上献金(154,070円)があった。そして、「フェスティバル賞」は平野教会、「讃美賞」は大阪北部教会、「みことば賞」は大阪教会がそれぞれ受賞した。

(報告:孫夏景 副書記)